

# 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業

商務・サービスグループ  
生物化学産業課

令和5年度予算額 **53 億円** ( **58 億円** )

## 事業の内容

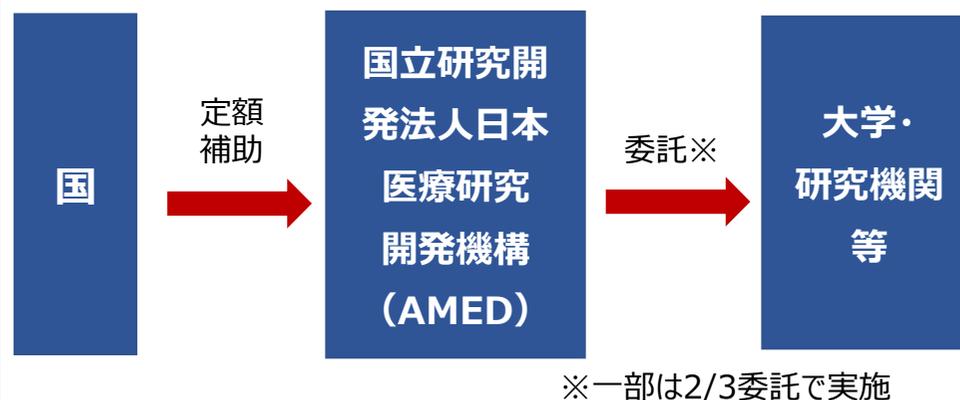
### 事業目的

医療の課題として、患者の方々のQOL（Quality of Life）を向上させるとともに、治療の適正化による医療費増加の抑制を図る必要があります。こうした背景から、個人差を踏まえたより効能の高い治療を実現する「個別化医療」の推進に向けて、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以下「AMED」）を通じた医療基盤の技術開発を行い、医療分野の産業発展に貢献します。

### 事業概要

AMEDにおいて、「個別化医療」を推進する技術開発として、新モダリティとして注目されるRNAを標的とした医薬品の創薬技術（令和3～7年度）、国際競争力のある次世代抗体医薬品の製造技術（令和3～7年度）、奏効率の低い抗がん剤等に対する患者層別化マーカー探索技術（令和1～令和5年度）、マイクロバイーム制御による次世代治療技術（令和3～8年度）等の研究開発を進めるとともに、新型コロナウイルス等の感染症にも対応したバイオ医薬品の技術基盤の確立につなげます。

## 事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



## 成果目標

平成27年度から令和8年度までの12年間の事業であり、バイオ医薬品の国内製造技術基盤の確立を目指します。具体的には、

- 令和12年度（2030年度）までに事業成果である各種技術を活用した我が国発の核酸標的医薬品シーズの前臨床試験の件数3件
- 令和12年度（2030年度）までに事業成果である各種技術を活用した我が国発の抗体医薬品シーズの前臨床試験の件数5件等を目指します。